◎カルベニン点滴用　［注］

【重要度】★★　【一般製剤名】パニペネム（PAPM）+ベタミプロン（BP）　Panipenem/Betamipron　【分類】カルバペネム系抗生物質
【単位】◎0.5g［PAPM0.5g+BP0.5g］/V
【常用量】1g/日［最大 2g/日］
【用法】1 日 2 回，30 分以上かけて点滴静注［1 回 1g の場合は 1hr 以上かけて］
【透析患者への投与方法】0.5g/日（Ohashi N, et al: J Infect Chemother 11: 24-31, 2005）
【その他の報告】ベタミプロンの尿中未変化体排泄率が高いものの主成分であるパニペネムの尿中未変化体排泄率は低いため 0.5g/日（5）
【保存期 CKD 患者への投与方法】Ccr＞50mL/min：1g/日［最大 2g］，10＜Ccr≦50：0.5～1g/日，Ccr＜10 mL/min：0.5g/日（5）
【特徴】イミペネムと比較するとグラム陽性菌・陰性菌に対しては同程度，緑膿菌に対してはやや劣る抗菌力．ベタミプロンはパニペネムの腎取り込みを抑制し腎毒性を和らげている．
【主な副作用･毒性】ショック，アナフィラキシー，SJS，TEN，急性腎不全，痙攣，意識障害，偽膜性大腸炎，肝障害，血球減少，間質性肺炎，好酸球増多，下痢，嘔吐，口内炎，ビタミン K 欠乏症状など
【代謝】尿中の主代謝物はβ-ラクタム環が開裂したもの（1）肺や腎でも一部が代謝される（1）
【排泄】尿中未変化体排泄率 PAPM 21.5%，BP 91.5%（Jpn J Antibiotics 54: 541-564,2001）PAPM 19.5%（Kurihara A, et al: Antimicrob Agent Chemother 36: 1810-6,1992）
【CL】PAPM 11.3L/hr（Kurihara A, et al: Antimicrob Agents Chemother 36: 1810-6,1992）
【HD 患者の CL】PAPM 2.92±0.238L/hr，BP 0.615±0.511L/hr（Ohashi N, et al: J Infect Chemother 11: 24-31, 2005）
【腎 CL】PAPM 2.3L/hr（Kurihara A, et al: Antimicrob Agents Chemother 36: 1810-6, 1992）
【腎 CL/総 CL】PAPM 20.35%（Kurihara A, et al: Antimicrob Agents Chemother 36: 1810-6,1992）

【t1/2】PAPM：1hr，BP 0.75hr（Jpn J Antibiotics 54: 541-564, 2001）PAPM 0.84ｈｒ（Kurihara A, et al: Antimicrob Agents Chemother 36: 1810-6,1992）■PAPM Ccr 30～59mL/min：1.8hr，Ccr 30mL/min 未満：3.9hr（1）■BP Ccr 30～59mL/min：1.3hr，Ccr 30mL/min 未満：5.8hr（1）【透析患者の t1/2】PAPM 2.84±0.248hr，BP 30.8±26.0hr（Ohashi N, et al: J Infect Chemother 11: 24-31,2005）
【蛋白結合率】PAPM 7.0±4.5%，BP 73.1±1.6%（1）PAPM 3.9%（Kurihara A,et al: Antimicrob Agents Chemother 36: 1810-6,1992）
【Vd】■PAPM 11.1L/man（Kurihara A,et al: Antimicrob Agents Chemother 36: 1810-6,1992）20L/man（1）■BP 30L/man（1）
【MW】PAPM 339.41，BP 193.20
【透析性】HD クリアランス PAPM 9.53±1.26L/hr［t1/2=1.04±0.129hr］，BP 4.18±0.643L/hr［t1/2=2.24±0.282hr］（Ohashi N, et al: J Infect Chemother 11:24-31,2005）資料なし（1）
【TDM のポイント】TDM の対象にならない
【O/W 係数】LopP=－1.3［1-オクタノール/水系，pH 7］（1）
【相互作用】バルプロ酸 Na の血中濃度低下のため併用禁忌［機序不明］（1）
【備考】アミノ酸輸液との配合不可で側管からの混合も避ける（1）パニペネムの分解産物による尿の着色（茶色）が報告されている（1）
【更新日】20240603

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。